

問題 中世 欧州

フリードリヒ1世の勅法の政治文化状況

次の文章は、神聖ローマ帝国の皇帝フリードリヒ1世（バルバロッサ）が1158年にイタリア北部のロンカリアで発した勅法「ハピタ」の全文である。この文章を読んで、問いに答えなさい。

皇帝フリードリヒは、諸司教、諸修道院長、諸侯、諸裁判官およびわが宮宰達の入念なる助言にもとづき、学問を修めるために旅する学生達、およびとくに神聖なる市民法の教師達に、次の如く慈悲深き恩恵を与える。すなわち、彼等もしくは彼等の使者が、学問を修める場所に安全におもむき、そこに安全に滞在し得るものとする。

朕が思うには、善を行う者達は、朕の称賛と保護を受けるものであって、学識によって世人を啓発し、神と神の下僕なる朕に恭順せしめ、朕の臣民を教え導く彼等を、特別なる加護によって、すべての不正から保護するものである。彼等は、学問を愛するが故に、異邦人となり、富を失い、困窮し、あるいは生命の危険にさらされ、全く堪えがたいことだが、しばしば理由もなく貪欲な人々によって、身体に危害を加えられているが、こうした彼等を憐れまぬ者はいないであろう。

このような理由により、朕は永久に有効である法規によって、何人も、学生達に敢えて不正を働き、学生達の同国人の債務のために損害を与えぬことを命ずる。こうした不法は悪い慣習によって生じたと聞いている。

今後、この神聖な法規に違反した者は、その損害を補填しない限り、その都市の長官に四倍額の賠償金を支払い、さらに何らの特別な判決なくして当然に、破廉恥の罪によってその身分を失うことになることが知られるべきである。

しかしながら、学生達を法廷に訴え出ようと欲する者は、学生達の選択にしたがい、朕が裁判権を与えた、彼等の師もしくは博士または都市の司教に、訴え出るものとする。このほかの裁判官に学生達を訴え出ることを企てた者は、訴因が正当であっても、敗訴することになる。

朕は、この法規を勅法集第四卷第十三章に挿入することを命ずる。

問い この勅法が発せられた文化的・政治的状況を説明しなさい。その際、下記の語句を必ず使用し、その語句に下線を引きなさい。（400字以内）

ボローニャ大学 自治都市

解答例

アラビア語・ギリシア語文献のラテン語翻訳で、神学や自然科学が発展する12世紀ルネサンスが高揚し、各地で大学が成立すると、学問を求める学生の移動も活発化した。ボローニャ大学では『ローマ法大全』なども研究され教会法も体系化された。一方北イタリア都市は、特許状を獲得して独自の都市法を整備する自治都市となり、周辺地域も支配する都市共和国として自立した。叙任権闘争に勝利し聖権を確保した教皇権は、教会法と教会裁判所を通じて影響力を強めた。この過程で普遍的権威を低下させた皇帝は、武力を背景に教皇権と自治都市に対する影響強化を試みるイタリア政策を推進した。さらに都市の大学に特許状を与え、教師および司教に裁判権を与えることで大学の自治権を承認し、自治都市の権限制限を試みた。このような状況で、学生保護を口実に、教皇権と自治都市の司法権を抑制し、皇帝任命の裁判官の司法における優位を確立しようと勅法が発せられた。（399字）

## ハギア・ソフィアの変遷

19世紀半ばに行われたイスタンブルのアヤ・ソフィア・モスクの修繕工事において、内壁の漆喰の下から、この建物がモスクに転用される前のハギア・ソフィア聖堂と呼ばれていた時期に制作されたモザイクが多数確認された。そのうちのひとつ、聖母子像を描いた9世紀半ばのものとされるモザイクには、破損により一部しか現存していないが、当初は「異端者によって破壊された図像をここに取り戻す」という内容の銘文がつけられていたことが分かっている。モザイクはその後いったん漆喰で埋め戻されたが、1930年代から改めて本格的な調査・修復が始められ、同時期に決定されたモスクの博物館への転用を経て、一般に公開されるようになった。

問い この建物の建造の時代背景、および、上記モザイクの銘文設置の政治的・社会文化的背景を説明したうえで、複数回にわたる転用がなぜ起こったのかを念頭に置いて、この建物の意味の歴史的变化を論じなさい。(400字以内)

## 解答例

6世紀のビザンツ帝国のユスティニアヌス帝は、コンスタンティノーブルでギリシア正教の総本山であるハギア=ソフィア聖堂を、皇帝権の神聖化のため、モザイクが特徴のビザンツ様式で再建した。ビザンツ帝国は、キリスト教の聖画像崇拜容認を批判するイスラームの圧迫を受け、726年に聖像禁止令を発布し、モザイクも破壊した。9世紀にはテマ制の整備にともないビザンツ帝国の勢力が回復し、スラヴ人への布教も進んだ。聖像禁止令も撤回され、聖母子像などの聖画像制作も盛んとなってビザンツ美術が発展し、聖堂のモザイクも復活した。15世紀半ば、イスラームのオスマン帝国がビザンツ帝国を滅ぼすと、コンスタンティノーブルはイスタンブールとなり、聖堂はミナレットが付設され、モザイクは埋められてアヤ・ソフィア・モスクに転用された。第一次世界大戦後、オスマン帝国が解体し、世俗国家の建設をめざすトルコ共和国の下で、モスクは博物館に転用された。(399字)

問題 近世 欧州

ドイツ農民戦争とルター

次の文章は、ルターがその前年に起こった大規模な反乱について1525年に書いた著作の一部である。この文章を読んで、問いに答えなさい。(問1, 問2をあわせて400字以内)

農民たちが創世記1章, 2章を引きあいに出して, いっさいの事物は, 自由にそして〔すべての人々の〕共有物として創造せられたものであると言ひ, また私たちはみなひとしく洗礼をうけたのだと詐称してみても, そんなことは農民にはなんの役にもたちはしない。なぜならモーセは, 新約聖書においては発言権をもたないからである。そこには私たちの主キリストが立ちたもうて, 私たちも, 私たちのからだも財産も挙げてことごとく, 皇帝とこの世の法律に従わせておられるからである。彼は「皇帝のものは皇帝にかえしなさい」と言われた。パウロもローマ13章において, 洗礼をうけたすべてのキリスト者に, 「だれでも上にたつ權威に従うべきである」と言っている。(中略)

それゆえに, 愛する諸侯よ, ここで解放し, ここで救い, ここで助けなさい。領民にあわれみを垂れなさい。なしようものはだれでも刺し殺し, 打ち殺し, 絞め殺しなさい。そのために死ぬならば, あなたにとって幸いである。(「農民の殺人・強盗団に抗して」『ルター著作集』第1集第6巻より引用。但し, 一部改変)

問1 下線部は「農民たち」によって提出された要求を比喩的に説明したものである。具体的にはどのような要求であったか述べなさい。

問2 「聖書のみ」というルターの主張は, 各方面に大きな影響を及ぼした。「農民たち」が考える「聖書のみ」と, ここでルターが表明している意見の相違はどのようなものであり, どのような理由で生じたと考えられるか, 述べなさい。

解答例

1 農奴制の廃止や土地の共有など。2 「農民たち」は, 聖書に身分制の論拠を見いだせないとして, 「聖書のみ」を現世の政治・身分秩序を否定する論理とした。ミュンツァーの指導のもと, 旧約聖書の記述も根拠に農民戦争は社会変革を目指す急進的な反乱となった。ルターは「聖書のみ」を信仰の根拠として魂の救済を重視する信仰義認説に立ち, 現世の秩序を尊重し, 世俗権力に従うことを, 新約聖書を引用して主張した。ルターは諸侯の保護下にあり, 「農民たち」は現世の利益を追求しているとして諸侯の鎮圧を支持した。宗教改革期のドイツでは, 贖宥状販売や十分の一税など各種の課税による教皇庁の搾取には, 諸侯から農民まで広範な社会層が反発したが, 宗教改革を通じて, 所領の教会の財産と権限を支配下に置き, 領域支配を強化しようとした諸侯と, 封建的抑圧からの解放を望む民衆が, それぞれの要求を宗教改革と結びつけたため, 意見の相違が拡大した。

(398字)

問題 中世・近世・近代 欧州

身分制議会

次の文章は、14世紀半ばに書かれた年代記の一部である。この文章を読んで、問いに答えなさい。（問1，問2をあわせて400字以内）

主の誕生より400年あまり、マジヤール人がパンノニアに到達してから29年目の年、マジヤール人すなわちフン人たちは、それまで司令官の一人であったベンデグーズの子アッティラを、ローマ人の風習に倣い、一致した意思をもって自らの王に据えた。アッティラは、弟ブダをティサ川からドン川に至る地の太守とし、自らはマジヤール人の王にして、大地の怒り、神の鞭と名乗った。（『彩色年代記』より）

問1 10世紀に東ヨーロッパで王国を建てたマジヤール人は、この年代記の中で、自らをフン人と同一視し、フン人の王アッティラを自らの起源として位置付けることで、新興勢力である自分たちの由緒を美化した。このマジヤール人が建てた王国を含め、カトリックに改宗してこの時期に国家形成した東ヨーロッパの王国を3つ答えなさい。

問2 上に引用した年代記の記述では、アッティラは、人々の意思で王になったということになっている。一堂に会した人々（有力者たち）が自らの指導者を選ぶというこの内容は、マジヤール人の年代記では『彩色年代記』に先立ち13世紀後半から14世紀にかけて現れた。このことは、西ヨーロッパをはじめとしてヨーロッパ各地で、まさにこの時期に、君主と諸身分が合議して国を統治する仕組みができたことを反映している。この仕組みとは何か、複数の具体的な事例を挙げ、中世から近代にかけての変化を視野に入れて説明しなさい。

解答例

1 ポーランド、ボヘミア、ハンガリー。2 身分制議会。イギリスでは王の執政に反発したモンフォールの議会や、戦争のための課税を目的に召集された模範議会が起源となった。フランスでは教皇との対立を背景に三部会が成立した。身分制議会は自律的な身分・社会団体を統合する機関となり、中世末から近世初期にかけて王権が強化される過程で、王権は議会を通じて地域や職能団体への課税を可能として王権の全国的展開の場となったが、一方で諸団体が課税協賛権を武器に伝統的権利の保持を主張して王権に対抗する場ともなった。フランスでは三部会が停止され絶対王政が確立したが、フランス革命は身分制を解体し、身分制議会に代わって、法の下に平等な国民を直接代表する国民国家の近代議会を創出した。イギリスでは、国王が議会を一旦停止したが、清教徒革命と名誉革命を通じて議会主権が確立し、19世紀には選挙権の拡大を通じて近代議会へ移行した。

11～13世紀の空間認識変化

I 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

人間は自分の「空間」についてある一定の意識をもっているが、これは大きな歴史の変遷に左右されるものである。種々さまざまな生活形態には同じく種々さまざまな空間が対応している。同時代においてさえも日々の生活の実践の場面では、個々の人間の環境はかれらのさまざまな職業によってすでにさまざまに規定されている。大都会の人間は農夫とはちがったふうに世界を考える。捕鯨者はオペラ歌手とはちがった生活空間をもっており、また飛行家にとって世界と人生は他の人々とは別の光の中に現れるだけでなく、別の大きさ、深み、そして別の地平において現れてくる。いろいろな民族全般、人間歴史のいろいろな時代についていえば、空間観念の相違はもっと深く、そして大きくなる。

(中略) クリストファー・コロンブスがコペルニクスの出現を待つてはいなかったと同様に、歴史的な諸力も学問を待つてはいない。歴史の力の新しい前進によって、新たなエネルギーの爆発によって新しい土地、新しい海が人間の全体意識の範囲の内にはいつてくるたびごとに、歴史的な存在の空間もまた変わってゆく。そして政治的・歴史的な活動の新たな尺度と次元が、新しい学問、新しい秩序が、新たに生まれた、あるいは再生した民族の新しい生が始まるのだ。この拡大・発展がひじょうに根深くまた思いがけないものであるために、ただ人間の標準や尺度、外的な地平だけでなく空間観念そのものの構造まで変わってしまうということもある。ここにおいて空間革命ということが問題になりうる。(カール・シュミット著、生松敬三/前野光弘訳『陸と海と—世界史の一考察』より引用。但し、一部改変)

問い ヨーロッパの歴史を考えると、この文章で述べられるような「空間革命」が11～13世紀にかけて見られたと考えられる。それはどのようなきっかけによるものだったか、また、結果としてヨーロッパでどのような経済・社会・文化上の変化が生じたか、考察しなさい。(400字以内)

解答例

西欧で三圃制農法や有輪犁が普及すると共同農業のため集村化が進み、農村共同体の自治が拡大した。農業生産の増大と大開墾運動による耕地の拡大は余剰生産物を発生させ、商業活動が活発化して各地に商業都市が勃興し、市参事会が市政を担う自治都市が出現した。教区教会が農村や都市に設立され、教会の指導でカトリック信仰が民衆に浸透し、教会の鐘や都市のゴシックの大聖堂は日常の生活の指標となった。信仰心の高揚から巡礼も盛んとなり、人口の増加とともに西欧の拡大運動の要因となった。十字軍運動は北イタリア諸都市の東方貿易を発展させ、エルベ川以東への東方植民はハンザ商人の北海・バルト海交易の活動と結合し、遠隔地商業の活発化で貨幣経済も普及した。イベリア半島でのレコンキスタ進展や両シチリア王国の建国はアラビア語文献の翻訳運動につながり、古典文化の再発見やイスラーム科学の影響でスコラ学や自然科学が発展し、知見が拡大した。(398字)

問題 近世 欧州

価格革命の影響

16世紀半ばに書かれた次の文章を読んで、問いに答えなさい。

あらゆる商品の価格は、その必要性が非常に高く、かつ提供される量が少ないときには上昇する。貨幣もまた、それ自体で売買され、かつあらゆる契約取引の対象となる以上は一つの商品であり、したがってその価格は貨幣の需要が大きく供給が少なければ上昇する。また、貨幣が不足している国では、貨幣が豊富にある国よりもあらゆる商品や労働が安価に提供される。実際にフランスではスペインよりも貨幣の量が少なく、パン、布、労働力の値段がスペインよりもはるかに低い。またスペインでも、貨幣の量が少なかった時代には、インド〔新大陸のこと〕の発見によって国中に金銀があふれた時代よりはるかに安い値段で商品や労働が提供されていた。

(マルティン・デ・アスピルクエタ『微利明解論』(1556年)より引用。但し、一部改変)

問い この文章中で述べられている現象が、スペインの盛衰、および16～17世紀のヨーロッパ経済に与えた影響について論じなさい。(400字以内)

解答例

スペインはポトシ銀山などで銀を獲得し、それを財源にオスマン帝国と抗争して国威を高め、カトリックの保護者となった。流入した銀はアントウェルペンを中心とするネーデルラントの国際商業の発展に寄与したが、本国では宮廷の奢侈と戦争に浪費されて国内産業の育成はなされなかった。イギリスに敗北し、オランダが独立すると大西洋の制海権を失い、英蘭の私掠船による輸送船団の襲撃で銀の流入が減少して衰退した。ヨーロッパへの銀の大量流入で物価が高騰する価格革命は、西欧の商工業の発展と市民層の台頭を促す一方で、固定した貨幣地代に頼る領主層の没落をもたらし、封建社会の解体が進んだ。国際商業の中心は北イタリアから北西ヨーロッパへ移り、独立後のオランダの繁栄を準備した。エルベ川以東の地では安価な輸出用穀物を生産するため、領主が農民を再農奴化し賦役労働を課す農場領主制が普及し、ヨーロッパの東西の国際分業体制が形成された。(397字)

問題 古代・中世 欧州

ポリスと中世都市

聖トマス（トマス=アキナス）に関する次の文章を読んで、問いに答えなさい。

聖トマスは都市の完全性を二因に帰する。すなわち第一に、そこに経済上の自給自足あり、第二には精神生活の充足、すなわちよき生活、がある。しかして、およそ物の完全性は自足性に存するのであって、他力の補助を要する程度、においてその物は不完全とされるのである。さて、靈物両生活の充足はいずれも都市完全性の本質的要件であるが、なかならず第一の経済的自足性は聖トマスにおいて殊更重要視される。「生活資料のすべてについての生活自足は完全社会たる都市において得られる」と説かるのみならず、都市はすべての人間社会中最後にしてもっとも完全なるものと称せられる。けだし、都市には各種の階級や組合など存し、人間生活の自給自足にあてられるをもってである。このように都市の経済性を高調することは明らかに中世ヨーロッパ社会の実状にそくするものであって、アリストテレス（アリストテレス）と行論の類似にもかかわらず、実質的には著しき差異を示す点である。聖トマスにおいてcivitasは「都市国家（都市に強調記号）」ではあるが、「都市」という地理的・経済的方面に要点が存するに反し、アリストテレスは「都市国家（国家に強調記号）」を主として政治組織として考察し、経済生活の問題はこれを二次的にしか取扱っていない。

（上田辰之助『トマス・アキナス研究』より引用。但し、一部改変）

\*civitas:市民権、国家、共同体、都市等の意味を含むラテン語。

問い 文章中の下線部における聖トマスとアリストテレスの「都市国家」論の相違がなぜ生じたのか、両者が念頭においていたと思われる都市社会の歴史の実態を対比させつつ考察しなさい。

解答例

アリストテレスは都市国家ポリスを人間生活の基盤においた。ポリスは国防のため信仰と血統を共有する人々の集住により成立した。当初は農業を基盤に貴族と平民の別があったが、交易に進出した平民が国防に参加して参政権を求めて身分闘争を展開し、義務と権利において平等な市民による共同体となった。市民の政治活動は生産活動を奴隷が担う奴隷制が支えていた。聖トマスは、中世農業革命による余剰の発生を背景に交易の要衝に成立した中世都市を念頭においた。中世都市は、商工業者による経済活動の拠点として発展した。成立時には特権身分の貴族や聖職者の支配下にあったが、特許状を獲得して自立し、独自の都市法と市参事会により運営される自治体となった。しかし都市の参政権は商人ギルドを支配する大商人が独占し、手工業者の同職ギルドが参政権を得る場合も、徒弟制度の下でギルド員は親方に限定されており、各種の階級が存在する身分制社会であった。

問題 中世 欧州

カール戴冠

「聖なるクリスマスの日、王がミサのために至福の使徒ペテロの墓前で祈りから立ち上がったとき、教皇レオは冠を彼の頭に載せた。そして、彼はすべてのローマ人民により歓呼された。「至誠なるカール、神により戴冠されたる偉大にして平和を許すローマ人の皇帝に命と勝利を！」と。そして、讃歌ののち、彼は教皇から古き皇帝の慣行に従った崇拜をうけ、それ以来、彼はパトリキウスの称号を止めて、皇帝と呼ばれた。」（『フランク編年史』より）

問い この文章の中で「ローマ人の皇帝」とされた「彼」（カール）は、ヨーロッパ世界にとって重要な存在とされる。彼はローマ滞在中、聖ペテロ教会でのクリスマス・ミサに出かけ、この文章によって伝えられる出来事を経験した。

カールは、この時なぜローマに滞在していたのか、また、なぜ「ローマ人の皇帝」としてローマ人民により歓呼されたのか。8世紀後半におけるキリスト教世界の情勢のなかで述べるとともに、この出来事がヨーロッパの歴史に与えた影響について説明しなさい。

解答例

ローマ教会は東ローマ皇帝の宗主下にあり、東ローマ皇帝と結びついたコンスタンティノープル教会と首長権や聖像崇拜をめぐる対立したため、滅亡した西ローマ帝国に代わる保護者を求めてフランク王国に接近した。ローマ教会がピピンによるカロリング朝創設を承認し、ピピンはローマを圧迫していたランゴバルド王国からラヴェンナを奪って教皇に寄進した。続くカールはランゴバルド王国を滅ぼしてローマに安定をもたらした。教皇レオ3世はこのフランク王国の強大化を東ローマ皇帝権から離脱する好機と捉え、ローマの暴動から逃れた教皇はカールに救援を求め、ローマ入りしたカールを皇帝として戴冠して西ローマ皇帝権を復活し、秩序の回復を求めるローマ市民もこれを歓迎した。これによって東ローマ帝国から自立した、ローマ・キリスト教・ゲルマンが融合する独自の西欧世界が成立した。しかし、皇帝権と教皇権の並立構造は、後の両権の抗争の歴史を準備した。

(400字)

20Cアメリカ経済政策 内容・背景・影響

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

考えてみれば、歴史を通じて、公共投資とインフラが文字通り米国を変革してきた。我々の態度と機会を。大陸横断鉄道や州間ハイウェイが2つの大洋をつなぎ、米国にまったく新しい前進の時代をもたらした。

全国民への公立学校と大学進学援助が議会への扉を広く開いてきた。科学の大躍進が我々を月に、そして今では火曜に送り、ワクチンを発見し、インターネットなど多くの技術革新を可能にしてきた。これらは国家として力を合わせて実施した投資であり、政府のみができる立場にあった。こうした投資は、何度となく我々を未来へ進ませてくれた。

一世代に一度の米国自身への投資である「米国雇用計画」を提案しているのはそのためだ。これは第2次世界大戦以来最大の雇用計画だ。交通インフラを更新するための雇用、道路、橋、高速道路を近代化するための雇用、港、空港、鉄道網。交通機関路線を建設するための雇用を生み出す。

(中略)

米国雇用計画は、何百万もの人々が仕事やキャリアに戻れるように支援する。このパンデミック（世界的大流行）の間に、200万人の女性が仕事を辞めた。200万人だ。子供や助けが必要な高齢者を世話するために必要な支援を受けられなかったため、という理由が余りにも多い。80万もの家族が、高齢の親や障害を持つ家族を自宅で世話するサービスを受けるための（低所得層向けの公的医療保険である）メディケイドの待機リストに載っている。あなたがこれを重要でないと思うなら、自分の選挙区の状況を確認してほしい。

(「全文で振り返るバイデン氏議会演説」『日本経済新聞』電子版、2021年5月5日より引用。但し一部改変)。

問い 下線部からは、この演説が、「米国雇用計画」に比肩しうるような20世紀アメリカの経済政策を念頭に置いていることがうかがえる。この20世紀アメリカの経済政策は、それ以降のアメリカの経済政策の基調を作った。しかし、こうした方向性の政策は、その後、強く批判されるようになる。この20世紀の経済政策の内容とそれが実施された背景について論じたうえで、それ以降の経済政策への影響を説明しなさい。また、それが、なぜ、どのような理由から批判されるようになったのかについても説明しなさい。(400字以内)

解答例

共和党政権の資本家優遇と自由放任政策は大恐慌の原因となり、フーヴァー政権は恐慌と失業者増大の克服に失敗した。民主党のローズヴェルト政権は政府が経済に介入する修正資本主義を基盤としたニューディール政策を実施した、TVAの公共投資で失業者を救済し、ワグナー法で労働者を保障し、社会保障法で年金や保険制度を導入した。以降の政権でも住宅供給・高速道路建設など公共事業が進められ、ケネディ政権の「ニューフロンティア」では貧困の克服、ジョンソン政権の「偉大な社会」では完全雇用が掲げられた。しかし石油危機などを背景に不況とインフレが同時に進展し、財政赤字が拡大すると、こうした「大きな政府」路線が国民の税負担増大や行政の非効率化を招いたとの批判が高まった。共和党レーガン政権は、民営化と公共支出削減による行政改革や、規制緩和と富裕層減税による競争力回復を唱える新自由主義の「小さな政府」路線へと転換した。(396字)

問題 近世 欧州

ゲーテの時代とレンブラントの時代

ヨーロッパ文化史に関する次の文章を読み、問いに答えなさい。

「シェークスピアのイングランド」, (a)「ゲーテの時代」, このような言葉から人々はある特色によって内面的に統一された文化現象の全体的印象を受ける。いやそれ以上に, 後代の人々が一種の憧憬れの感情を以て見返るようなもの, 後代には既に失われた青春の活力, 後代が僅かにその余映を仰ぐような新しい指導価値が, 突然に国民の間に芽生え, 成長し, 彼らの月並みな伝統的生活, その動脈硬化的生活力を一新するような時代, いわば歴史的な最良の時代を想い浮かべる。丁度, それと同じような意味で, (b)「レンブラント〔レンブラント〕時代」という言葉が, オランダの歴史家達によって使われる。

(村松恒一郎『文化と経済』より引用。但し, 一部改変)

問い 下線部(a)(b)について, 「ゲーテの時代」と「レンブラント時代」の文化的特性の差異を, 下の史料1及び史料2を参考にし, 当該地域の社会的コンテクストを対比しつつ考察しなさい。(400字以内)

史料1

絵画(レンブラント作「織物商組合の幹部たち」)

史料2

たしかにわれわれの帝国の体制はあまりほめられたようなものではなく, 法律の濫用ばかりで成り立っていることをわれわれも認めたが, フランスの現在の体制よりはすぐれていると考えた。〔中略〕しかし他の何物よりもわれわれをフランス人から遠ざけたのは, フランス文化追従に熱心な王と同じく, ドイツ人全般に趣味が欠けているという, 繰り返し述べられる無礼な主張であった。〔中略〕フランス文学自体に, 努力する青年を引きつけるよりは反発させずにはおかないような性質があったのである。すなわち, フランス文学は年若い, 高貴であった。そしてこの二つは, 生の享受と自由を求める青年を喜ばせるようなものではなかった。

(ゲーテ『詩と真実』より引用。但し, 一部改編)

解答例

レンブラントの時代の17世紀のオランダは, スペインから独立を果たし, 商工業が発展してヨーロッパ経済の中心となり, 豪商が政治・社会の実権を握っていた。同時代のスペインやフランスでは, 絶対王政の確立を背景に, 王侯のための豪華なバロックの宮廷文化が発展したが, オランダではレンブラントの肖像画や風俗画に代表される富裕な市民のための文化が発展した。ゲーテの時代の18世紀後半のドイツでは, 古典主義演劇や, 繊細なロココ様式などフランス語の宮廷文化と, 人間理性の普遍性を説く啓蒙思想などのフランス文化が, ヴォルテールと交流したプロイセンのフリードリヒ2世などにより先進文化として受容され称揚された。ゲーテは, フランス絶対主義を批判し, 分権的な領邦国家体制の下でのドイツ文化の多様性を擁護するとともに, 啓蒙思想を批判して個人と感情を重視する疾風怒濤運動を開始し, 19世紀のドイツロマン主義の先駆となった。(393字)

### 覇権国家の交替

20世紀中葉において資本主義世界の覇権がイギリスからアメリカ合衆国に移行した過程を、19世紀後半以降の世界史の展開をふまえ、第2次世界大戦・冷戦・脱植民地化との関係に必ず言及して論じなさい。(400字以内)

### 解答例

19世紀後半、第2次産業革命の中心となったアメリカは工業力でイギリスを凌駕したが、イギリスはポンドを基軸とする「世界の銀行」の役割を維持し、海軍力を背景に植民地帝国を形成した。第1次世界大戦後、イギリスの戦債を引き受けたアメリカが最大の債権国となり、海軍力でもイギリスと並んだ。一方イギリスは世界恐慌期に金本位制を停止し、ポンドの地位を動揺させた。第2次世界大戦でイギリスは疲弊する一方、アメリカは連合国に武器貸与法で軍事援助を行って最大の金保有国となり、戦後はブレトン=ウッズ体制を構築してドルを基軸とする自由貿易体制を主導した。また、ソ連との冷戦が始まると、西側陣営の盟主としてマーシャル=プランやNATOを通じて西欧を影響下に置き、新興独立国には共産化阻止のための援助を行った。イギリスは、インドなど植民地の独立や米ソの反対によるスエズ戦争の失敗で、国際的地位を低下させた。

## 第二次百年戦争

第二次百年戦争とも呼ばれるイギリスとフランスとの争いについて、両国の対立の背景および1763年に至るまでの戦いの経緯を説明し、この争いの結末がその後、世界史にどのような影響を及ぼしたかを述べなさい。(400字以内)

### 解答例

オランダに対し重商主義政策をとった英仏両国は、北米・西インド諸島の植民地経営やインドの綿布取引で競合した。名誉革命でオランダとイギリスの事実上の同君連合が成立すると、旧教のフランスと新教諸国の対立軸が形成され、ファルツ戦争から第二次百年戦争が始まった。スペイン継承戦争では北米でアン女王戦争が連動し、ユトレヒト条約でイギリスが北米の係争地を獲得した。オーストリア継承戦争では北米でジョージ王戦争が、インドでもカーナティック戦争が起こった。七年戦争ではインドでカーナティック戦争と普拉ッシーの戦い、北米ではフレンチ＝インディアン戦争となり、イギリスが勝利して1763年パリ条約が結ばれた。イギリスは産業革命の基盤を形成するとともに、インドの植民地化を開始したが、財政難による13植民地への課税強化は、アメリカ独立革命の原因となった。北米植民地などを失ったフランスでは財政難が深刻化し、革命に向かった。

近代ドイツの史学

総じて言えば、一概に古代経済史研究とは称しても、歴史学派〔経済学〕におけるものと〔近代歴史学の〕古典古代学におけるものとは、研究への志向の契機においても、事象の対象化の方法においても、ひとしからざるものが存するのである。歴史学派経済学はその根本の性格においては依然として経済学なのであって—即ち歴史学ではないのであって—古代にも生活の一特殊価値たる経済を発見せんとすることが最も主要な研究契機を形作っているのに、古典古代学にあっては、経済をもそのうちに含むところの古代世界への親灸が研究契機になっている。歴史学派においては全ヨーロッパ的経済発展上の然るべき位置に古代経済を配列することが問題になっているのに、古典古代学においては、古代と現代とを本来等質の両世界として、又等質たるべき両世界として表象することが主要問題になっている。古典古代学にも発展の理念は存するけれども、それは等質の両世界における、同一律動のそして自界完了的なる発展の理念であって、全ヨーロッパ的、又は人類的発展の観念ではない。古代の事象は、それが経済世界を構成する方向において対象化せられるのが歴史学派経済学における方法であるのに、古典古代学においては、古代の事象はそれが歴史的現実的なる古代を形成する方向において対象化せられる。もしかくの如き観察が—多数の異例は別として—一般的に下されうるものとすれば、古代経済に関する論争が単に史料の技術的操作の辺りにのみ存するものではない所以と、論争のよつて来るところの精神史的・文化史的深所とをも、同時に理解しうるわけであらう。

(『上原専祿著作集3 ドイツ近代歴史学研究 新版』より引用。但し、一部改変)

問い 文章中の下線部について、歴史学派経済学と近代歴史学の相違とはいかなるものであり、また、それはどのようにして生じたのか、両者の成立した歴史的コンテクストを対比させつつ考察しなさい。(400字以内)

解答例

19世紀にイギリスは産業革命による工業化に先行し、リカードら古典主義経済学者が、国際分業による自由貿易を主張した。工業化が遅れたドイツでは、リストら歴史学派経済学者が経済の発展段階を主張し、産業育成のための保護管関税貿易を説いてドイツ関税同盟結成に尽力した。一方、ドイツでは、革命により社会契約説に基づく国民国家に先行したフランスに蹂躪された経験から、民族主義に基づく統一と国民国家建設が志向された。ランケら近代歴史学者は、啓蒙思想の普遍主義を批判したロマン主義を背景に、全人類的な歴史の発展法則に基づく歴史観を批判し、民族の歴史を重視して個別の史実を厳格な史料批判の手法で追求した。歴史学派経済学では、経済の視点から歴史の発展を重視し、古典古代を下位に置いたのに対し、近代歴史学は古典古代を市民の政治参加など国民国家のモデルとして評価し、現代と等価な時代として研究したため、相違が生じたのである。(398字)

問題 近世・近代 欧州・北米・中南米

ハイチと合衆国の奴隷解放

黒人奴隷制に関する次の文章を読んで、問いに答えなさい。

ユネスコが1994年に奴隷貿易、奴隷制の記憶を掘り起こす「奴隷の道」プロジェクトを開始して以降、21世紀に入り、環大西洋世界の奴隷貿易に再び注目が集まっている。国連総会では、①ハイチ革命200周年にちなみ、2004年を「奴隷制に対する闘いとその廃止を記念する国際年」とすると宣言され、また1807年に世界に先駆けて奴隷貿易を禁止したイギリスでは、200周年を前に首相が「遺憾の意」を表明した。

下の表は、16世紀以降の環大西洋圏の地域別奴隷輸入数を示したものだが、従来、大西洋奴隷貿易は、英仏などヨーロッパ諸国を起点にアフリカとカリブ海域を結ぶ、主に北大西洋で展開された三角貿易に関心が向けられてきた。だが、表からもわかるとおり、最も多くの奴隷を輸入したのはポルトガルの植民地、ブラジルであり、近年の研究では、②ラテンアメリカ地域、とりわけブラジルとアフリカを直接結ぶ南大西洋の奴隷貿易について、その独自のメカニズムに関心が集まっている。

問1 15世紀末にスペイン、ポルトガルの両国が定めた、支配領域の分界線を定めた条約を何というか。

問2 下線部①にあるハイチ革命を契機に、南北アメリカ大陸における奴隷貿易廃止、奴隷解放の流れは加速した。最後に奴隷制が廃止されたのは、最も多くの黒人奴隷を受け入れてきたブラジル（1888年）であった。この19世紀の南北アメリカ大陸で達成された奴隷解放の歴史のなかで、ハイチとアメリカ合衆国の二つのケースだけは、他とは異なる特徴があったが、それはどのようなものだったか簡潔に答えよ。（100字以内）

解答例

1 トルデシリャス条約。

2 ハイチもアメリカ合衆国も武力衝突を経て奴隷制を廃止した。前者は黒人の奴隷反乱で黒人共和国として独立して廃止し、後者は奴隷制反対の北部と奴隷制支持の南部の南北戦争で、北部が勝利したことで廃止された。

問題 近世・近代 欧州・北米・中南米

ラテンアメリカの独立運動とブラジル

黒人奴隷制に関する次の文章を読んで、問いに答えなさい。

ユネスコが1994年に奴隷貿易、奴隷制の記憶を掘り起こす「奴隷の道」プロジェクトを開始して以降、21世紀に入り、環大西洋世界の奴隷貿易に再び注目が集まっている。国連総会では、①ハイチ革命200周年にちなみ、2004年を「奴隷制に対する闘いとその廃止を記念する国際年」とすると宣言され、また1807年に世界に先駆けて奴隷貿易を禁止したイギリスでは、200周年を前に首相が「遺憾の意」を表明した。

下の表は、16世紀以降の環大西洋圏の地域別奴隷輸入数を示したものだが、従来、大西洋奴隷貿易は、英仏などヨーロッパ諸国を起点にアフリカとカリブ海域を結ぶ、主に北大西洋で展開された三角貿易に関心が向けられてきた。だが、表からもわかるとおり、最も多くの奴隷を輸入したのはポルトガルの植民地、ブラジルであり、近年の研究では、②ラテンアメリカ地域、とりわけブラジルとアフリカを直接結ぶ南大西洋の奴隷貿易について、その独自のメカニズムに関心が集まっている。

問3 下線部②にあるラテンアメリカ地域では、1810～20年代に多くの国々が独立した。その独立運動は、いかなる契機から始まり、どのような人々により担われ、独立後にはどのような経済政策がとられたのか。また、このラテンアメリカの独立運動のなかで、ブラジルの独立にはどのような特徴があったのか、述べなさい。(275字以内)

解答例

3 ナポレオン戦争でスペインが混乱し、イギリスが海上封鎖を実施したため、本国の支配が弱体化した。これを機にアメリカ独立革命とフランス革命の影響を受けた植民地生まれの白人クリオーリョを主体とする武装闘争で、各地に共和国が独立した。独立後もクリオーリョの大土地所有制が維持され、独立を支援したイギリスとの経済的結合が強まるなか、プランテーションで生産された商品作物や鉱物資源を輸出し、工業製品を輸入する自由貿易政策がとられた。ブラジルでは、ポルトガルの王子を皇帝とする帝国として平和的に独立し、分裂したスペイン領に対し、旧ポルトガル領の統一を維持した。

問題 近世 欧州

ベルリンの大聖堂

ベルリンにはたくさんの広場がありますが、その中で「最も美しい広場」と称されるのは、コンツォルトハウスを中央に、ドイツ大聖堂とフランス大聖堂を左右に配した「ジャンダルメン広場」です。この2つの聖堂はともにプロテスタントの教会ですが、フランス大聖堂は、その名の通り、ベルリンに定住した約6千人のユグノーのために特別に建てられたものです。この聖堂の建設は1701年に始まり、1705年に塔を除く部分が完成しました。壮麗な塔が追加されて現在の姿になったのは1785年のことです。

歴史的イベントの舞台として有名な広場もあります。例えば、「ベーベル広場」は、1933年にナチスによって「非ドイツ的」とされた書物の焚書が行われた場所で、現在はこの反省から「本を焼く者はやがて人をも焼く」というハイネの警句を記したモニュメントが設置されています。この広場に面する聖ヘートヴィヒ聖堂は、ポーランド系新住民のために建設されたカトリック教会です。建設は1747年に始まり、資金不足や技術的困難を乗り越えて、1773年に一応の完成にこぎつけました。実際にはカトリック教会として建設されましたが、この円形聖堂は、もともとローマのパンテオンを模して内部に諸宗派の礼拝場所が集うように構想されたものです。この聖堂をデザインしたのは当時の国王自身であり、彼の基本思想を象徴するものと言えるでしょう。

問い 文章中の下線部で述べられている2つの聖堂が建設された理由を比較しながら、これらの聖堂建設をめぐる宗教的・政治的背景を説明しなさい。

解答例

王権神授説を信奉してフランス絶対王政の最盛期を現出したルイ14世は、ユグノーに信仰の自由を認めたナントの王令を廃止し、カトリックによる信仰の統一をはかった。そのためユグノーの商工業者が多く新教国に流出した。富国強兵策をとるブランデンブルク＝プロイセンのフリードリヒ＝ヴィルヘルム大選帝侯は彼らを多く受け入れ、スペイン継承戦争ではフリードリヒ1世がフランスと敵対したオーストリアを支援し、王号を認められた。これらがフランス大聖堂建設の背景である。その後プロイセンは、フリードリヒ2世の時代にオーストリア継承戦争でオーストリアから鉱工業の発達したシュレジエンを獲得した。これによりカトリック教徒のポーランド人を支配下に含むことになった。フリードリヒ2世は、啓蒙専制君主として信教の自由を認める政策を行ったため、ポーランド人のカトリック信仰が容認された。これらが聖ヘートヴィヒ聖堂建設の背景となった。(397字)

ヨーロッパ共同体と東南アジア諸国連合

ともに1967年に発足したヨーロッパ共同体と東南アジア諸国連合は、地域機構として大きな成功をおさめた。両機構の歴史的役割について、その共通点と相違点を説明しなさい。(400字以内)

解答例

ヨーロッパ共同体は、2度の大战で荒廃した西欧諸国が独仏の対立を解消し、平和的経済復興をはかる構想を出発点とし、市場統合により米ソに対抗する経済圏の構築をめざした。順調な経済復興は多極化の一因となり、イギリスの加盟などをへてより高次の統合を視野に入れ、冷戦終結後は旧社会主義諸国をはじめ加盟国が増加する一方、共通市民権や統一通貨ユーロの導入など超国家的な結合をめざすEUへと発展した。東南アジア諸国連合はベトナム戦争中に発足し親米反共色が強かったが、戦争終結期には中立化を宣言して、政治・経済的地域協力機構に移行した。冷戦終結後はベトナムなど社会主義国の加盟も実現し、EUと同様に関税障壁の撤廃による市場統合を果たしつつ高い経済成長を実現した。共通通貨制度や中央議会は持たず政治的結合は弱いですが、APECなど域外の機構や国家との経済協力にも積極的で、途上国の地域協力機構の成功モデルとなっている。(396字)

問題 近代・現代 北米

近代朝鮮半島の政治動向

次の文章を読んで、問いに答えなさい。(問1から問3まですべてで400字以内)

光化門広場はソウル市民の憩いの場であり、多くの観光客が訪れる名所である。一方、ここは社会運動が活発である現在の韓国社会を象徴する空間でもある。2014年にセウォル号沈没事故が発生した際には、犠牲者の追悼や事故の責任を追及するデモがおこなわれた。さらに、2016～2017年には、当時の朴槿恵大統領の退陣を求めて、火を灯したろうそくを持った市民が光化門広場などでたびたびデモを実施し、同大統領は罷免されるに至った。韓国で、このプロセスは「ろうそく革命」と呼ばれており、20世紀後半の(a)民主化運動を継承したものと評価されている。

光化門広場の奥には、朝鮮王朝の始祖・李成桂が漢城(ソウル)に建造した王宮・景福宮がある(光化門は景福宮の正門である)。近年は、韓国のアーティストBTSがここでパフォーマンスを披露したことで話題になった。きらびやかなイメージのある景福宮だが、その歩んできた道のりは決して平坦なものではなかった。まず、1592年に景福宮の建造物の多くが(b)戦乱のなかで消失した。再建されたのは19世紀半ばのことである。さらに、1894年に景福宮は(c)日清戦争開戦に先立って日本軍に占領され、1895年には日本の朝鮮公使・三浦梧楼らの計画による朝鮮王妃(閔妃、明成皇后)殺害事件の現場ともなった。「韓国併合」後には、日本は景福宮の建造物を撤去し、その敷地内に朝鮮総督府の庁舎を建設した。そして、植民地支配からの解放50年を迎えた1995年以降、朝鮮総督府旧庁舎が撤去された。現在、景福宮の復元事業は大部分が完了している。

問1 下線部(a)に関して、1979年から1980年までの韓国における政治の動向について述べなさい。

問2 下線部(b)が示す戦乱(1592～1598年)の朝鮮側における名称を記したうえで、この戦乱の展開過程、また、この戦乱が明に与えた影響について述べなさい。

問3 下線部(c)に関して、1880年代から1894年までの朝鮮・清・日本の関係について述べなさい。

解答例

1 軍部主導の開発独裁体制をとる朴正熙大統領が暗殺され、民主化運動が高揚したが、軍人の全斗煥が実権を握り、光州事件などで民主化運動を弾圧して大統領となった。2 壬辰・丁酉倭乱。大陸進出を企図した豊臣秀吉が李朝を侵略したが、明の援軍と海将李舜臣、民間の義兵らの活躍で撃退された。明の財政の悪化と女真の台頭を招き、明衰退の一因となった。3 日本の協力で軍の近代化を図った閔氏政権に反発し、大院君派の軍人が起こした壬午軍乱は、清が鎮圧した。清は軍を駐留させ、宗主権を強化して内政にも干渉した。これを受容した閔氏政権を批判し、清からの独立と日本を模範とした近代化を主張した金玉均ら開化派は、日本の駐留軍と結んで1884年に甲申政変を起こしたが清軍に鎮圧された。日清両国は1885年に天津条約で朝鮮から撤兵したが、清は袁世凱を顧問として干渉を強化した。1894年、甲午農民戦争を機に日清両国が出兵し、日清戦争となった。(395字)

## 文化大革命の経緯と1980年代の中国

次の文章を読み、問いに答えなさい。

1977年8月、第11回中国共産党代表大会が開かれ、華国鋒が「政治報告」をおこなった。そのなかで彼は依然として継続革命論を「偉大な理論」と称賛し、党路線の中心は「毛沢東の旗幟を掲げ守ること」と強調している。しかし同時に、革命と建設の新たな段階に入ったとの認識に立ち、「第1次文化大革命の終了」を宣言し、「4つの近代化建設」を掲げた。ここでの華国鋒の主張は、まさに彼が毛沢東の威信に依拠していたために毛の遺産を背負いながら、同時に混乱した経済・社会、そしてむろん政治の混乱を建て直さねばならないというディレンマを物語っていたのである。他方、鄧小平の戦略は極めて明確であった。政治闘争に明け暮れる雰囲気をついに一掃して経済再建、経済発展に力を集中するかであった。そのためには、文革路線、毛沢東路線さえ事実上、否定してもかまわない。それを積極的に支持するグループを排除しなければならないという決意だったのだろうか。もちろんできる限り政治混乱を起こさないで「巧くやる」ことが大切だという前提であった。

(天兒慧『巨龍の胎動：毛沢東VS鄧小平』より。一部改変)

問い 「第1次文化大革命」の経緯を述べた上で、「4つの近代化建設」が1980年代の中国に与えた影響を説明しなさい。(400字以内)

### 解答例

大躍進政策で混乱した中国では、国家主席となった劉少奇が、鄧小平とともに調整政策で収拾を図ったが、反発した毛沢東は、軍代表の林彪らと民衆の批判運動による継続革命を説く文化大革命で奪権を図った。毛沢東に忠誠を誓う学生の紅衛兵らは、劉少奇や鄧小平を資本主義の道を歩む実権派と批判して失脚させ、社会は混乱した。その過程で毛沢東と対立した林彪が失脚すると、毛沢東夫人の江青ら文革推進派の四人組が台頭したが、毛沢東死後、華国鋒は四人組を逮捕し、文化大革命は収束した。復権した鄧小平は、「4つの近代化」を唱え、人民公社の解体や、経済特区の創設による市場経済導入など改革・開放政策を進めた。経済の自由化は、貧富の格差や官僚の腐敗の諸問題と、政治の自由化・民主化の期待を生じさせた。1989年には、民主化容認の姿勢を見せた胡耀邦を追悼する学生を中心に、民衆が民主化を要求する天安門事件が起こったが、鄧小平はこれを弾圧した。

(400字)

小中華

次の文章A, Bを読んで、問いに答えなさい。(問1, 問2をあわせて400字以内)

A (1860年代において、当時の朝鮮の政権と思想的方向性を同じくする) 奇正鎮・李恒老は(中略)攘夷論を開陳した。たとえば奇正鎮は、「洋胡」(西洋諸国)と条約を結べば、儒教の道德や礼制はたちまちに滅び、「人類」(朝鮮の人間)は禽獣となると危機感を表明した。これは、「邪説」を排撃して「正学」(朱子学)を崇ぶという「衛生斥邪」の内容をさらに拡大して、西洋諸国を夷狄(「洋夷」)・禽獣であるとして全面的に排斥し、儒教道德・礼制、それに支えられた支配体制を維持擁護しようとする主張であった。

西洋諸国を夷狄・禽獣と視るのは、[ ① ] 意識によるものであった。(中略)西洋諸国は儒教を否定する「邪教」の国であるから、夷狄あるいはそれ以下の存在である禽獣ということになる。

B (1876年に)李恒老の門人の崔益鉉は条約調印に反対する理由として五点を挙げたが、そのなかには次のような点があった。

「日本との交易を通じて、『邪学』が広まり、人類は禽獣に化してしまう。」「内地往来・居住を拒めないから、日本人による財貨・婦女の略奪、殺人、放火が横行して、人理は地を払い、『生靈(じんみん)』の生活は脅かされる。」「人と『禽獣』の日本人とが和約して、何の憂いもないということはありません。」

崔益鉉の描く日本人像は、奇正鎮は上疏において、倭(日本)と洋は一心同体であるとする「倭洋一体論」を展開した。

(糟谷憲一「朝鮮ナショナリズムの展開」『岩波講座世界史20アジアの〈近代〉』より引用。但し、一部改変)

問1 [ ① ] は、17世紀の国際関係の変化を受けて高揚した、自国に対する朝鮮の支配層の意識を示す言葉である。これを記しなさい。

問2 [ ① ] 意識がいかなるものであり、どのような背景があったのか、また、それが1860~1870年代にどのような役割を果たしたのかについて、それぞれ国際関係の変化と関連づけて述べなさい。

解答例

1 小中華 2 東北地方の女真人が建国した後金は、2代ホンタイジが皇帝を称し清と改名し、明に対抗した。朝鮮は、華夷の別を強調する朱子学を官学として明の冊封を受け、女真人を夷狄として蔑視していたが、清の圧力に屈服し、清の冊封を受けた。その後明が滅亡し、清が中国を支配すると、朝鮮は清に面従しつつ密かに明の元号を用い、朝鮮こそが明の中華の正統を継承したとする小中華の意識を育み、両班層は清以上に厳格に儒学の儀礼を守った。1860年にアロー戦争に敗北して結んだ北京条約で、清は外国公使の北京駐在を承認し、対等な国の存在を認めた。日本も開国し、対等な国が条約で関係を結ぶ主権国家体制を受容し、明治維新で近代化を図った。英仏など列強や日本は、朝鮮にも主権国家体制の受容と開国を要求したが、大院君政権は鎖国攘夷策をとってこれを拒絶し、小中華思想によって欧米諸国や日本を蔑視し、衛生斥邪を説く一部の儒者はこれを支持した。(400字)

国民党と共産党

1960年代後半に書かれた以下の文章を読み、下の問いに答えなさい。（問1、問2をあわせて400字以内）

国父、孫文先生が革命を唱えて以来、すでに70余年になる。われわれはこの間に絶えず敵と戦闘して何回も失敗を重ね、あるいは無数の勝利を得たが、今日もなお最後の成功を得られず、1949年には空前と大失敗、つまりソ連と [ ① ] とは最も卑劣であくどい手段と、最も残暴な武力をもって中国大陸を占拠したのである。

このため、われわれは父祖の地を追われて台湾に撤退したが、決して気を落とさず、今日こそ弱から強、危から安へと転換できる機会であると信じている。

この大難を経験することによって、われわれでさえ敵に屈服せず、死を誓って奮闘すれば、戦うほど強くなり、さらに大きな勝利を獲得することができるのである。なぜならば、われわれの従事している戦争は革命の戦争であり、国家民族のために独立を争い、同胞のために自由と正義を勝ち取るための戦いだからである。

われわれは革命戦争が必ず勝利をおさめる信念を持って清朝を打倒し、軍閥を消滅し、そして日本帝国主義を打ち破った。今日もそれと同じ信念のもとにソ連を打倒し、 [ ① ] を消滅しなければならない。

（蔣経国『わが父を語る』より引用。但し、一部改変）

問1 ①に入る語句を記しなさい。

問2 ここで対立する両勢力の関係と1949年に至るその変遷についてまとめなさい。

解答例

1 中共。2 五・四運動が起こると、孫文は中国国民党を結成した。新文化運動を推進した陳独秀らはコミンテルンの指導で中国共産党を結成し、「連ソ・容共・扶助工農」の方針を示す国民党に第1次国共合作で合流した。広州に国民政府を樹立した国民党は、五・三〇運動を背景に北伐を開始した。しかし蔣介石がその途中で上海クーデタを起こして共産党を弾圧し国共は分裂した。張学良の帰順で中国統一の国民革命は完成したが、共産党は瑞金に中華ソヴィエト共和国臨時政府を樹立した。日本は満州事変で進出を本格化したが、蔣介石は共産党攻撃を優先した。瑞金を放棄して長征を開始した共産党はその途上の八・一宣言で一致抗日を呼びかけ、張学良が西安事件を起こして内戦は停止した。日中戦争勃発を機にほぼ対等な第2次国共合作が成立したが、戦争中も対立は続き、日本の敗戦後国共内戦が再燃すると、共産党が勝利して中華人民共和国を建て国民党は台湾に逃れた。

三・一運動と五・四運動

III 次の文章は、ある朝鮮人革命家が、アメリカのジャーナリストに語った回想を元に書かれたものである。これを読んで、問いに答えなさい。(問1, 問2をあわせて400字以内)

先生は、中学校の教室の前に芝居じみた厳肅さで立ち、生涯忘れられない美しい言葉のあふれる演説をした—今日それはなんと反語的に響くことか!

「この日、朝鮮独立の宣言はなされた。朝鮮全土に平和なデモ行動が行われよう。われわれはただ独立と民主主義を求めるのみだ。誰もわれわれの正当な要求を拒むことはできない。」

私たちは彼に率いられて街に出、何千という他の学校の生徒や街の人々と隊伍を組み、歌いながらスローガンを叫びながら町中を行進した。

デモの途中、町の中で大衆集会が開かれ、そこで新たな独立宣言が読みあげられた。この宣言は国際主義的心情の色彩が濃く、平和精神と万国の国際的眞偽の擁護とをうたっていた。また中国とインドに共闘の呼びかけを行っているが、①中国は山東半島の一部を日本に引き渡す運びとなった日英の秘密条約が発覚してからそれに応じてきた。

私は世界的大運動に重要な役割を演じているような気持ちで、至福千年がついに来たのだと思いこんでいた。しばらくして伝わってきた②ヴェルサイユの裏切りのショックは大変なもので、私などまるで心臓が避けてとび出すかと思った。

(ニム・ウェールズ著、松平いを子訳『アリランの歌』より引用。但し、一部改変)

問1 この文章全体で描写されている運動と下線①が示す運動について、それぞれの名称を示しなさい。

問2 下線②で示されている会議に言及しつつ、両運動の背景および展開過程、意義を論じなさい。

解答例

1 三・一運動。五・四運動 2 第一次世界大戦中、東アジアでは民族資本が成長し、ロシア革命やウィルソンの十四カ条の民族自決原則に刺激され、民族意識が高揚した。日本統治下の朝鮮ではパリ講和会議に期待して独立宣言が発表され、独立万歳を叫ぶデモが広がったが、列強により民族自決はヨーロッパに限定された。運動は朝鮮総督府に弾圧されたが、言論・出版の制限を緩和するなど、従来の武断政治は「文化政治」に転換された。独立運動家は上海で大韓民国臨時政府を樹立して運動の維持を図った。中国では二十一カ条要求の破棄が拒否され、日本に山東のドイツ利権が譲渡されるなどパリ講和会議への期待が裏切られたことを受け、新文化運動が高揚していた北京大学の学生を中心にヴェルサイユ条約調印拒否を要求するデモが起こり、反日反帝国主義の大衆運動に発展した。中国代表団は調印を拒否し、この運動の影響を受けた孫文は、大衆政党の中国国民党を結成した。

(400字)

問題 中世 東アジア

ザイトンを取り巻く11～13Cの国際関係

われわれが海を渡り、最初に到着した町はザイトゥーンの町であった。そこは壮大にして、規模の大きな町であり、カムハー織り（錦紗）やビロード織りの布地（緞子）がそこでは製造されており、それらはその町に由来する名で知られている。その布地は、ハンサー織りやハンバーリク織りよりも上等である。

その停泊港は、世界の数ある港のなかでも最大規模の港の一つ、否、間違いなく最大のものであり、私は実際にその港で、約100艘の大型ジャンクを見た。さらに小型船に至っては、多くて数え切れないほどであった。その港は陸地に入り込んだ海からの大きな入江で、やがてその海は大河と混じり合う。この町は、他のすべてのシナ地方と同じく、住民のための果樹園、田畑と屋敷が町の真ん中であって、ちょうど、我が国のスイジルマーサの町とよく似ており、他ならぬこのために、彼らの町は規模が大きくなっている。

（イブン・バトゥータ著、家島彦一訳注『大旅行記7』より引用。但し、一部改変）

問い ザイトンとも称されたザイトゥーンの都市名を漢字で答えた上で、当該都市を取り巻く11～13世紀の国際関係を論じなさい。（400字以内）

解答例

泉州。北宋が遼や西夏の圧迫をうけ内陸貿易の主導権を失うと海上貿易が発展した。この頃ムスリム商人の来航が活発化するとともに中国商人はジャンク船を用い陶磁器や絹織物を交易品として南シナ海に進出し、東南アジアの三仏齊や南インドのチョーラ朝が入貢した。こうして民間貿易を中心に朝貢貿易をまじえた体制が発達し、北宋は市舶司を増設して貿易を管理するようになった。12世紀、金が北宋を滅ぼして華北を支配すると、淮河を境として南宋が金と並立した。その結果江南の開発が進み、江南に近い泉州は最大の海港都市となった。13世紀には元が南宋を滅ぼして中国を統一し、内陸の交易路と海の道の起点となる泉州が結びつき、イタリア商人のマルコ=ポーロも泉州を経由して友好国のイル=ハン国に向かった。海上交易の支配を図った元はジャワに遠征し失敗したが、元軍の撤退後ジャワにはマジヤパヒト王国が成立し、元に朝貢した。

## 朝鮮戦争の影響

次の文章は、1950年8月に周恩来が、同年6月に勃発した朝鮮戦争への対策を述べたものである。これを読んで、問いに答えなさい。

アメリカ帝国主義は朝鮮で突破口を開け、世界大戦の東方基地にしようとしている。したがって、朝鮮は確かに現在の世界における闘争の焦点になっており、少なくとも東方における闘争の焦点である。現在、我々は朝鮮について、兄弟国の問題としてとらえたり、我が国の東北と境を接し、利害関係がある問題としてとらえたりするばかりでなく、さらに重要な国際的闘争問題としてもとらえねばならない。このような認識は我々に新たな問題をもたらしている。すなわち、朝鮮人民を支援し、台湾の解放を先送りにし、積極的に東北国境防衛軍を組織することである。

(中共中央文献研究室編『周恩来年譜1949-1976』より引用。但し、一部改変)

問い 文章中の下線部が指す1945年以降の朝鮮半島の情勢を説明した上で、朝鮮戦争が中国および台湾の政治に与えた影響を論じなさい。(400字以内)

## 解答例

朝鮮半島は、第二次世界大戦終結で日本の支配から解放されたが、北緯38度線を境として北にソ連、南にアメリカが進駐して分割管理した。冷戦を背景に1948年に南では李承晩を大統領に韓国、北では金日成を首相とする北朝鮮が成立し、それぞれアメリカとソ連の支援を受けた。1950年に北朝鮮が統一をめざして韓国に侵攻し、朝鮮戦争が勃発した。国連安保理が北朝鮮を侵略国と断定し、アメリカ軍中心の国連軍が派遣され韓国を支援する一方、ソ連と同盟関係にあった中国は人民義勇軍を派遣して北朝鮮を支援し、東西対立が現実の戦争となった。1953年に休戦が成立したが、半島北半を共産主義政権が維持したことで、中国では共産党および毛沢東の支配体制が確立し、また台湾解放よりも中ソ同盟の強化によるアメリカとの対決が優先された。台湾は、アメリカが中国への対抗上蒋介石と結び、米華相互防衛条約など反共の重要拠点となったため、国民党独裁が確立した。(398字)

清朝の対外関係

次の文章は、18世紀末における清朝の対外関係の一端を伝えるものである。これを読んで、問いに答えなさい。  
1793年9月16日（水） 一行の韃靼滞在期間もいよいよ残り少なくなったので、①皇帝への暇乞の挨拶に、今朝、大使は参内した。但しこの時は前回のような正式な参内ではなかった。

この時にも、王宮内ではある種の公式要談が行われた。随行した幹部連の腹藏のない話をまとめると、この時の会談の内容はおおよそ次のようなものである。

皇帝は、英国といわずどこいわずおおよそ外国を相手に成文の条約による契約に署名する、従ってそういった契約に必ずや応ずるということには、のっけから絶対反対だったのである。皇帝の言分はこうである、一およそ外国と条約関係に入るということは、この国の伝統的国是にももとより、事実支那古来の法律にも背くことになる。が、自分としては、英国国王並に英国国民に対し高い尊敬の念をもっていることは申すまでもない。事実、当方としても、できうべくんば英国に対し、現にこの国と通商関係にある他のどのヨーロッパ強国よりも一層大きい通商の便宜を与えたいのは勿論であるし、また今回の会談の眼目と思われる例の広東来港の英国船に課する課税問題ということでも、当方としてはこれに対して新しい取極めに必ずや用意もないではない。が、そのまた半面には、自分としては、自国民の真の利益を絶えず擁護すべき地位にあるのであって、これだけは絶対に犠牲にするわけにはいかないのだ、従って自国民の利益が少しでも犯される気配があれば、いつでも相手国の如何を問わずその修好上の便宜を撤回しなければならない。で、かりに英国が、この国と現に通商関係にある他の国以上に有利な便宜を与えられているとしても、その通商行為の如何によっては、これまたその権利を喪失すべきことにならぬとも限らない。自分はこの際、これだけのことをはっきり言明しておきたい。で、これを自分が理解・実践するには、成文の証書も署名も一切その必要がないのである。

（イーニマス・アンダースン著・加藤憲市訳『マカートニー奉使記』より引用。但し、一部改変）

問い 下線①の皇帝の名前を知り、その皇帝によって語られた清朝の対外関係の特徴とその崩壊過程を説明しなさい。

解答例

乾隆帝。清朝は、中華思想に基づいて、皇帝が周辺地域の君主に官爵を与える冊封を行い、形式的ながら君臣関係を結び、冊封された側に朝貢を義務づける冊封体制をとった。欧米諸国との貿易も朝貢の一環と位置付け、貿易港を廣州一港に制限し、特権商人組合である公行がその貿易を独占した。しかし産業革命が進展したイギリスで自由貿易主義が台頭すると、マカートニーなどが清に自由貿易を求めたが、清はこれを拒否した。そこでイギリスはアヘン戦争を起し、勝利後の南京条約で5港開港と公行廃止を定め、自由貿易を認めさせた。さらにアロー戦争後の北京条約では、外国公使の北京駐在を認めさせて、主権国家体制を受容させ、清も翌年には外交を担当する総理衙門を設置したが、アジア諸国との冊封体制は維持した。しかし清仏戦争後の天津条約でベトナムへの、日清戦争後の下関条約で朝鮮への宗主権を放棄すると、冊封国をすべて失い、伝統的な冊封体制は崩壊した。（400字）